

●2013年4月1日 阿部修士(上廣こころ学研究部門)が特定准教授に昇任。熊谷誠慈(上廣こころ学研究部門)が特定准教授に着任。清家理(上廣こころ学研究部門)が特定助教に着任。福島慎太郎(上廣こころ学研究部門)が非常勤研究員に着任。伊藤文人、柳澤邦昭、小木曾由佳が日本学術振興会特別研究員に着任。長岡千賀特定助教、山本哲也特定研究員、京野千穂非常勤研究員が離職。

●4月1日 増田貴彦(アルバータ大学准教授)が来日。2013年7月31日まで滞在。

●4月16日 第3回ブータン文化講座「ブータンを見つめた京都大学との56年」(於:稲盛財団記念館3階大会議室)。講演:栗田靖之(国立民族学博物館名誉教授)、コメンテーター:坂本龍太(京都大学白眉センター助教)、司会:熊谷誠慈。

●4月25日 第5回京都大学ブータン研究会(於:稲盛財団記念館2階225会議室)。発表:上田晶子(大阪大学グローバルコーポレーションセンター准教授)「ブータンの農村におけるフードセキュリティ」、コメンテーター:熊谷誠慈。

●4月26日 プリティッシュコロンビア大学(カナダ)大学院生との合同セミナー(於:稲盛財団記念館2階225会議室)。報告1:Benjamin Cheung: Culture and sleep、報告2:Dan Randles: Meaning maintenance model、報告3:荻原祐二(京都大学教育学研究科): Cultural change under the globalization、コメンテーター:Steven J. Heine、増田貴彦、企画:内田由紀子。

●5月2日～6日 吉川左紀子センター長が京都大学ブータン友好プログラム第11次訪問団に参加。ブータンを訪問。

●5月10日 カール・ベッカー教授が第36回品川セミナーで講演(於:京都大学東京オフィス、主催:京都大学附置研究所・センター)、「生老病死に対する日本人の経験智と自己決定」。

●5月14日 第11回身心変容技法研究会「芸術と身心変容技法」(於:稲盛財団記念館3階大会議室)。発表1:柿沼敏江(京都市立芸術大学音楽学部教授/音楽学・音楽史)「音楽と身心変容技法」、発表2:高橋悟(京都市立芸術大学美術学

部教授/構想設計)「記憶・知覚・身体への芸術的アプローチ～inter-Score/行為を誘発する装置としての記譜」、総合討論・司会:鎌田東二。

●5月29日 第15回わく・湧く・ワークショップ「イメージワークとメディテーションのタベ」(於:稲盛財団記念館3階小会議室1)、企画:カール・ベッカー。

●5月31日 Kimberly Bowen(ユタ大学心理学部大学院生)が来日。2013年8月21日まで滞在。

●6月 清家理助教の共同研究「認知症を有する人と家族に対する早期教育的介入の必要性」(筆頭発表者:櫻井孝国立長寿医療研究センターもの忘れセンター外来部長)が日本認知症ケア学会大会2013年度「石崎賞」を受賞。

●6月1日 Rob Jenkins(ヨーク大学准教授・日本学術振興会外国人招聘研究者)が来日。2013年8月31日まで滞在。

●6月11日 船橋新太郎教授が「京都大学東京オフィス連続講演会『東京で学ぶ京大の知』シリーズ11 人はなぜハマる?」で講演(於:京都大学東京オフィス/主催:京都大学東京オフィス)、「やめる脳、やめられない脳」。

●6月12日 増田貴彦准教授講演会「文化と認知:『ものの見方』にあらわれる文化差の研究」(於:人間・環境学研究科棟演習室)。講師:増田貴彦(アルバータ大学准教授)、企画:内田由紀子。

●6月13日 第12回身心変容技法研究会「ベルクソン研究第2弾」(於:稲盛財団記念館3階大会議室)。発表:鶴岡賀雄(東京大学大学院教授/宗教学・キリスト教神秘主義研究)「身心変容論としてのベルクソン〈神秘主義〉論:『社会系』神秘主義と『異界系』神秘主義の交錯・融合としての身体機械系神秘主義」、コメンテーター:津城寛文(筑波大学大学院教授/宗教学)、総合討論、司会:鎌田東二。

●6月19日 Steve W. Cole 講演会“Social regulation of human gene expression”(於:人間・環境学研究科棟演習室)。講師:Steve W. Cole, Ph.D., UCLA School of Medicine、企画:内田由紀子。

●6月27日 アルバータ大学(カナダ)大学院生との合同セミナー(於:こころの未

来研究センター別館セミナー室1)、報告1:Sawa Senzaki: “The Development and Transmission of Culturally Unique Attentional Styles in Canada and Japan: An Evidence for a Scaffolding for Cultural Learning.”、報告2:Matthew Russell: “N400 Incongruity Effect in an Episodic Memory Task Reveals Different Strategies for Handling Irrelevant Contextual Information for Japanese than European Canadians.”、報告3:Kristina Nand: “Holistic vs. Analytic Expressions in Artworks among Canadian and Japanese Elementary, Junior-high, and High School Students.”、企画:内田由紀子。

●7月 阿部修士准教授が第15回ヒト脳機能マッピング学会で若手奨励賞を受賞。演題:「虚記憶の記銘と想起に関わる神経基盤」。

●7月1日 Kimberly Bowen 研究報告会 “Cultural Pathways of Social Support: Putting the self in self-esteem or the social in social support?”(於:稲盛財団記念館2階225会議室)。報告者:Kimberly Bowen(ユタ大学心理学部大学院生/JSPSサマープログラム滞日研究者)、企画:内田由紀子。

●7月4日 第6回京都大学ブータン研究会(於:稲盛財団記念館2階225会議室)。発表:福島慎太郎研究員「ブータンのGNH政策と幸福の多層性」、コメンテーター:内田由紀子。

●7月9日 第4回震災関連シンポジウム「こころの再生に向けて」(於:稲盛財団記念館3階大会議室) テーマ:「震災と語り」。第1部 趣旨説明:鎌田東二、鈴木岩弓(東北大学教授/宗教民俗学)+高橋原(東北大学准教授/宗教学)「震災後の幽霊の語り」と民俗」、ショートコメント:河合俊雄、やまだようこ(京都大学名誉教授・立命館大学特別招聘教授/発達心理学)「喪失の語り」、島藺進(東京大学名誉教授・上智大学グリーンケア研究所所長)「震災とグリーンケアの語り」、コメンテーター:井上ウィマラ(高野山大学教授/スピリチュアルケア学)。第2部 討議:金子昭(天理大学教授/倫理学)、稲場圭信(大阪大学准教授/宗教社会学)、司会:鎌田東二。

●7月10日 第16回わく・湧く・ワークショップ「イメージワークとメディテーションのタベ」(於:稲盛財団記念館3階小会議室1)、企画:カール・ベッカー。

●7月11日 Rob Jenkins 講演会“Variability in photos of the same face”(於:稲盛財団記念館大会議室)。講演:Rob Jenkins(ヨーク大学准教授/日本学術振興会外国人招聘研究者)、企画:吉川左紀子。

●7月14日 内田由紀子准教授が「日本グループ・ダイナミクス学会2013年度優秀論文賞」を受賞。受賞論文:内田由紀子・遠藤由美・柴内康文(2012)、「人間関係のスタイルと幸福感:つきあいの数と質からの検討」『実験社会心理学研究』52(1), 63-75。

●7月19～21日 内田由紀子准教授が「京都流議定書2013」(主催:京都流議定書2013イベント実行委員会、共催:京都市)パネルディスカッション「こころが繋ぐ資本」に参加。

●7月23日 熊谷誠慈准教授、松下賀和、安田章紀研究員(すべて上廣こころ学研究部門)が国際チベット学会(於:モンゴル国立大学)で研究会“Bhutanese Buddhism and Its Culture”(ブータン仏教と文化)を開催。

●7月25日 第13回身心変容技法研究会「シャーマニズムと身心変容技法」(於:稲盛財団記念館3階大会議室)。発表1:加藤之晴(駒澤大学非常勤講師/宗教学・五島列島シャーマニズム研究)「五島列島と九州のシャーマニズムと身心変容技法」、発表2:金香淑(目白大学准教授/文化人類学・韓国シャーマニズム研究)「韓国のシャーマニズムと身心変容技法」、コメンテーター:アルタンジョラー(ワザ学共同研究員/文化人類学・モンゴルシャーマニズム研究)、討議、総合討論、司会:鎌田東二。

●7月28日 河合俊雄教授が「第60回日本病跡学会総会」(於:大阪国際会議場)で「ユング『赤の書』シンポジウム」を開催。野間俊一(京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座精神医学教室)「『赤の書』に見られる身体性の変容過程」、河合俊雄「『赤の書』における自我の位置と新しい意識」。指定討論者:川戸圓(川

戸分析プラクシス)、座長:河合俊雄。

●8月1日 上田祥行研究員が特定助教に着任。

●8月2日 福岡県立明善高校(文部科学省SSH・スーパーサイエンスハイスクール指定校)の生徒8名がセンターを訪問。鎌田東二教授によるセンター全体の取り組みについての講義および阿部修士准教授によるセンター連携MRI関連施設の見学およびfMRIを用いた心理学実験についてのレクチャーを聴講。

●8月2日 今田俊恵講演会“Cultural Minds: Development and Cultural Environment”(於:稲盛財団記念館2階225会議室)、講師:今田俊恵(イギリスBrunel大学講師/文化心理学・発達心理学)、企画:内田由紀子。

●8月25日 「支える人の学びの場 こころ塾2013」第1回(於:稲盛財団記念館3階大会議室)「こころの誕生」。講義1:乾敏郎(情報学研究科教授)「1歳までの認知発達の神経基盤」、講義2:明和政子(教育学研究科准教授)「周産期から探るヒトのこころの発達」、事例報告:嶋谷和之(大阪市更生療育センター)、コメンテーター:加藤寿宏(医学研究科)、司会:吉川左紀子。

●8月26日 Laura Specker Sullivan(ハワイ大学哲学部修士・アメリカ)が来日。2015年3月31日まで滞在。

●9月4日 第17回わく・湧く・ワークショップ「イメージワークとメディテーションのタベ」(於:稲盛財団記念館3階会議室1)、企画:カール・ベッカー。

●9月5日 「こころを知る、未来を考える——ダイアログBAR」第1回(於:稲盛財団記念館3階大会議室)。「つながりから価値を生む」前半は3名のゲストによるセッション、内田由紀子准教授、岡村充泰(株式会社ウエダ本社代表取締役社長)、西村勇也(NPO法人ミラック代表理事)、後半は参加者主体でトピックを持ちよるダイアログ(小グループディスカッション形式)、NPO法人ミラック、株式会社ウエダ本社と共催。

●9月8日 「支える人の学びの場 こころ塾2013」第2回(於:稲盛財団記念館3階大会議室)「こころ・からだ・他者」。講義1:乾敏郎(情報学研究科教授)「高

次認知機能と身体性」、講義2:吉川左紀子「顔・表情認識とコミュニケーション」、事例報告:加藤寿宏(医学研究科准教授)、司会:吉川左紀子。

●9月11日 ブータンワークショップ・第7回京都大学ブータン研究会(於:稲盛財団記念館3階中会議室)、発表:高橋孝郎(国際金融公社・元ブータン首相フェロー)「ブータンのGNH(国民総幸福)政策の詳細と現状」、コメンテーター:内田由紀子。

●9月12日・13日 fMRI解析セミナー「脳領域間結合解析」(稲盛財団記念館3階大会議室)。講師:河内山隆紀(株式会社ATR-Promotions、脳活動イメージングセンタ)、司会:阿部修士。

●9月13日 Jason Allen Danelly(ロードアイランド大学助教・アメリカ)が来日。2014年7月12日まで滞在。

●9月24日～26日 「身心変容技法の比較宗教学」国際シンポジウム(於:稲盛財団記念館3階大会議室)。24日、第14回身心変容技法研究会(研究者対象)。講義:張明亮老師(峨眉丹道医薬養生学派第十四代伝人・中醫師・北京黃亭中医薬研究院院長・山西大学体育学院客員教授・中国国家体育総局健身気功協会常任委員)「中国峨眉丹道医薬養生学派の身心変容技法研究について」、総合討論、通訳:山元啓子、司会:鎌田東二。25日、国際シンポジウム(一般公開)。企画趣旨説明:鎌田東二、基調講演:張明亮老師、テーマ「峨眉丹道医薬養生学派の気功と武道における身心変容技法研究」、通訳:山元啓子、指定討論:濱野清志(京都文教大学教授/臨床心理学・気功家)、倉島哲(関西学院大学准教授/身体論・中国拳法)、アルタンジョラー(ワザ学共同研究員/文化人類学・モンゴルシャーマニズム研究)、総合討論、司会:鎌田東二。26日、峨眉丹道医薬養生学派気功実修(一般公開)、実技指導:張明亮老師、通訳:山元啓子、司会:奥井遼研究員(上廣こころ学研究部門/臨床教育学)、司会:鎌田東二。